

4月1日(月) 午前：晴、午後：晴時々曇、歩約 14.5km

民宿美滝山荘。起きると、窓から那智の滝と三重塔がわずかに見える。朝食 7:00～、7:35 出発。少し下って、那智の滝がよく望め滝壺まで見えるという飛瀧神社の鳥居まで行ったが、木々が立ち込め滝壺は望めそうにないので、途中から引き返した。8:20 昨日の那智山青岸渡寺まで登り、熊野古道・中辺路中で一番の難所といわれる小口(こぐち)集落までの約 14.5km の大雲取越えとなる。横手にある古道に入り、那智高原公園内を上がる。ところが公園を上った所で、古道への標示板を見落としたようで、相当進んでから、車で通りかかった林業関係の人に聞いたところ、林道・車道を進んでいた。また、この林道は地蔵茶屋跡で古道と合流。古道はそこから通行止めとなり、迂回路を通ることになるが、何人かが通行止めの古道を通ったとのこと。古道と林道はほぼ並行しており、2度程、古道からの声を聴き、11:45 地蔵茶屋跡に着。やはり林道を歩いた 3 人組と一緒に昼食。林業関係の人の話をし、迂回路を避けると 40 分の短縮になるので一緒に行こうということに。話がはずみ 12:20 出発。通行止めの古道は、倒木が多いとともに、人が通らないからだろう、かなり荒廃している。それでも 12:42 通行止め古道のほぼ中間点・石倉峠に。ここには「紀伊のくに大雲取の峰ごえに一足ごとにわが汗はおつ 斎藤茂吉作 畑尻熊夫書」と刻まれた歌碑。このような歌碑がこの先、小口集落までに 6 個建てられていた。

3 人組とは別れ、石畳の急な坂を下り、上りして、13:28 中辺路の中で最高所となる標高 870m の越前峠。次いで、大雲取越えの中でも最大の難所といわれ、急坂に石畳が点在する胴切坂を下り、楠の久保旅籠(はたご)跡に到達。楠の久保旅籠跡には約 1.5km の区間に数か所の屋敷跡が見られ、江戸時代には 10 数軒の旅籠があり、大変にぎわったという。また、野菜を植えても猿と鹿に食べられ、干ワラビ以外には菜や大根などはなかったという。さらに、大正時代まで旅籠があり、「豆腐あります、風呂わいています」が宣伝文句だったという。このとき、胴切坂から楠の久保旅籠跡、次の円座石(わろうだいし)にかけて、やけに寒くなったと思うと、樹林の合間の上は薄日が射す曇なのに、3~4 回、小さな氷雪がチラチラ 5~10 分間位降り、ひよっとすると大変なことになるのではと心配させられた。15:50、神々が座り、お茶を飲んだという円座石。円座石の上側の巨石には神仏習合を表わす阿弥陀仏(本宮)、薬師仏(新宮)、観音仏(那智)の梵字が刻まれている。円座とは、ワラやい草などを丸く編んだ敷物のことだが、石の上面の模様がそれに似ていることから、円座の名が付けられたといわれている。今回の参詣の旅での宿泊予約は 3 月 15 日前後に全て電話で行ったが、小口集落にある数軒の民宿などはいずれも満杯で予約できず。ようやく、新宮市内にあり、マイクロバスで送迎してくれる高田グリーンランドを予約していた。約束していた円座石からは、筆者のガラ携では圏外。越前峠からの高低差 800m を下り、上りして標高 65m の小口集落で、ようやくつながり、12 名の中国人などと同乗。17:30 高田グリーンランド着。

高田グリーンランド・泊。2 食付 1 万円。中瓶ビール・600 円。弁当 500 円。下着などを洗濯・乾燥。



6:52 滝美山荘からの那智滝・三重塔



7:52 飛瀧神社の鳥居



8:30 那智高原公園への坂



12:16 地藏茶屋跡



12:16 大雲取地藏尊



12:35 通行止めの大雲取古道



12:42 石倉峠



12:42 紀伊のくに大雲取・・・の歌碑



13:28 越前峠



13:43 瑠璃啼く・・・の歌碑



14:21 胴切坂



14:50 風の・・・の歌碑



15:09 楠の久保旅籠跡



15:50 円座石(わろうざいし)



16:41 小口集落

4月2日(火) 午前:晴、午後:晴後晴時々薄曇、歩約15km

高田グリーンランド・朝食 7:00~。7:45、昨日の中国人や欧米の人達らと一緒に送迎バスで小口集落へ送ってもらう。8:10 小口集落の小和瀬橋に着。小和瀬には昔、参詣する人々が赤木川を舟で渡っており、渡場跡がある。現状よりも水深があり、川幅も広く、渡渉することが出来ず、昭和29年に吊り橋が



完成するまで渡舟が利用されていたという。小和瀬橋を渡り、古道は小口集落から請川までの約 13km の小雲取越えとなる石段を上がり、尾切地蔵から賽の河原地蔵までの約 5km の間にも歌碑が 6 個建てられていた。これらの石碑は、石倉峠から小口集落までの 6 個よりもかなり古い。坂道を上ったり、下ったりして、10:08 桜茶屋跡に着。桜の大木があったので桜茶屋と呼ばれたといい、ここからの遠景に、茶ではなく水を飲み休憩。元文 4 年（1739 年）の古書には、茶店が 2 軒あり、旅人を泊めていたと記されている石堂茶屋跡を過ぎ、階段を上り、11:16 賽の河原地蔵。賽の河原とは、死んだ子供が行く三途の川の河原のこと。子供は、親の供養のために石を積み上げて塔を作り、作っては鬼に壊され、そこに地蔵菩薩が現れて子供を救うという。地蔵は熊野詣で亡くなった人々の霊を供養するために作られたものと考えられている。11:55 百間ぐら（ひゃっけんぐら）に。

ぐらとは高い崖のことで、杉の木などに覆われた小雲取越えの頂上近くまで登ると突然、展望が開けた百間ぐらに達した。熊野古道の中でも屈指の大パノラマで 3600 峰から成る果無山脈や大塔山系が連なる絶景は撮影スポットとなっている。また、この場所は死者と生者が共にあると伝えられている。丁度、米国の陽気な若者・男女の集団が大リーグ・ドジャーズ（元広島カープ）の前田健太投手のマエケン体操をアレンジしたような運動・ダンスをしており、思わず吹き出してしまった。絶景を堪能しながら昼食の後、比較的歩きやすい尾根道を下り、13:07 万才峠への分岐点、さらに下って、14:15 樹林の合間に熊野川を一望。さらに満開の桜を見たりしながら下り、民家の軒先の間を抜け、14:50 国道 168 号と合流。ここからは、熊野古道マップ・冊子に古道の表記は無く、ほぼ熊野川と並行しバスが通っている国道 168 号を歩き、15:40 熊野本宮大社の旧社地である大斎原（おおゆのはら）の入口に着。



8:22 小和瀬の渡場跡にて



8:32 小和瀬の赤木川



8:32 小和瀬の満開の桜をズーム



8:36 古道に咲くつつじの花



8:44 尾切地蔵



8:52 男手に牡丹餅・・・の歌碑



8:57 石段の登り坂



9:31 かがなべて待つらむ母・・・





9:52 小雲取のぼり・・・の歌碑



10:08 桜茶屋跡からの遠景



10:11 桜茶屋跡



10:30 桜峠からの下り道



11:03 石堂茶屋跡に建つ東屋



11:16 賽の河原地蔵



11:50 小口集落へ向け下る米国の男女



11:59 感激の百間ぐらにて





12:00 崖の上の百間ぐらにて



12:09 百間ぐらの絶景



13:07 万才峠への分岐地点



14:15 樹間にわずかに熊野川を望む



14:31 満開の桜



14:39 エメラルドグリーンの熊野川



15:35 熊野川と山の中腹に群生する桜

熊野川・音無川・岩田川の合流点にある中洲が大斎原と呼ばれており、熊野本宮大社はかつてここにあり、当時、約1万1千坪の境内に5棟12社の社殿、楼門、神楽殿や能舞台など、現在の8倍もの規模だったそうである。また、江戸時代まで中洲への橋がかけられることはなく、参拝者は歩いて川を渡り、着物の裾を濡らして詣でるのが作法だったという。音無川の冷水で最後の水垢離を行って心身を清め、神域に入った。しかし、明治22年(1889年)8月に、明治になってからの急激な森林伐採により上流の十津川で大水害を呼び、その濁流で本宮大社の社殿などの多くが流失し、水害を免れた上四社が現在の熊野本宮大社のある場所に遷座された。

15:50 熊野本宮大社。由緒書きなどによると熊野本宮大社は、崇神天皇の代・紀元前33年に創建され、



上四・中四・下四社から成るため、熊野三所権現と呼ばれ、また十二殿に祭神が鎮座していたことから、熊野十二社権現ともいわれていた。しかし、明治 22 年の未曾有の大水害により、社殿のうち中四・下四社が倒壊し、現在地に上四社のみ祀られている、主祭神は熊野速玉大社と熊野那智大社とは異なる家都美御子神である。平安時代には宇多法皇に始まり、歴代の法皇・上皇・女院の熊野御幸は 100 余度に及び、南北朝から室町時代にかけては上流階級に代わり、武士や庶民、身分の貴賤や老若男女を問わず大勢の人々が参詣するようになったという。

15:54、神が宿る神域と人間が住む俗界との結界を表わすという参道入口の鳥居。杉木立の中、熊野大権現の奉納幟が他の神社では見たことのないほど詰めて立ち並び 158 段の石段を上がり、手水舎で手と口をすすぎ清め、宝物殿の横を通り、拝殿、社殿を参拝。御朱印・墨書を頂いた。また、早春に白河上皇が熊野御幸のとき、御宝前にて詠まれた「咲きにほふ花のけしきを見るからに神のこゝろぞそらにしらるゝ」の歌が秩父宮勢津子妃の筆により掲示されていた。

途中、伊邪那美命が祀られている参田社に参り、平成 12 年（2000 年）に建てられた高さ約 34m・幅約 42m の日本一の大鳥居へ。さすが日本一、咲き誇る桜の上に立つ大鳥居は壮観の一語。

少し遅くなったので、カフェボヌールでチェックインし、歩 5 分で月心庵へ。月心庵は神職の人が建てたものをそのまま購入したといい、立派な神棚、台所などもあり、自炊生活ができるようになっている。風呂に入った後、両側の膝がはれてはいないが薄くピンク色となり、右側が非常に痛い。左側はそうでもない。両方の膝関節の軟骨摩耗は左側が酷いため、左足をかばって歩くので、右側を特に痛めたのだろう。カフェボヌールで夕食。月心庵に帰えると、やはり右側の関節が痛い。後々のことを考えると、無理をしない方が良い。計画では明日から 4 日間で、熊野古道・小辺路の田辺市や日本一広い十津川村の果無峠、三浦峠、伯母子峠と 1000m 級の峠を越え、野迫川村の水ヶ峰分岐など約 64km を巡り、真言密教総本山の高野山にお礼参りする予定だった。熊野古道には今回の中辺路の一部の他に、大辺路・伊勢路・紀伊路・大峯奥駈道・小辺路の 6 ルートがあり、修験者の修行の場となった山岳縦走路の大峯奥駈道に次いで、小辺路は非常に難路でもあり、残念ながら中止することにした。予約していた 3 か所の民宿などに電話してキャンセル。

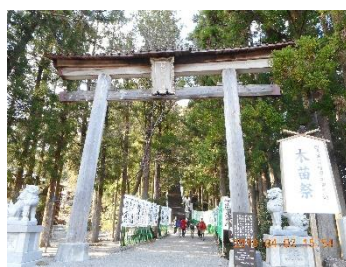
月心庵・泊。夕食付 9612 円。小瓶ビール 600 円。下着などを洗濯・乾燥。



15:43 大斎原の鳥居と桜



15:44 石となり休んでいる八咫鳥



15:54 熊野本宮大社入口



15:56 奉納幟はためく参道





16:02 熊野本宮の参道



16:05 大注連縄をかけてある山門



16:07 第一殿前にて



16:10 熊野本宮大社殿



16:11 本宮大社殿前にて



16:15 本宮大社殿



16:16 秩父宮勢津子妃御筆による白河上皇の「咲きにほふ・・・」の御歌



16:17 第三殿・澄誠殿/家津美子大神・阿弥陀如来



16:18 第二殿・中御前/速玉大神・薬師如来





16:19 第一殿・西御前/夫須美大神・千手観音



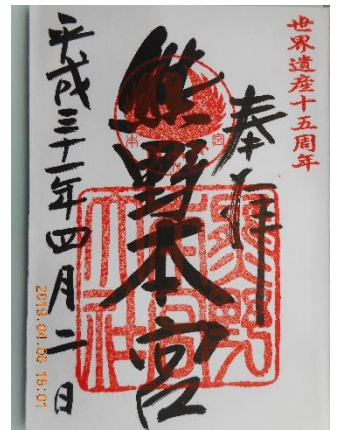
16:21 熊野本宮大社拝殿



16:21 なでると身体の異常部位が正常化するという大黒石



16:22 拝殿前の筆者



熊野本宮大社の御朱印・墨書



16:47 日本一の大鳥居



16:47 ズームした大鳥居



#### 4月3日(水) 晴時々曇、歩約 1km

月心庵。7:00 起床、右膝の痛みは和らいでいる。湯を沸かし、お茶を入れて、持参のパンなどで朝食。昨日、大斎原にある熊野本宮大社の旧社地には、入口の鳥居の所までにはしか行っていないので、再度、大斎原へ。7:54 参道。なるほど参道は、鳥居から相当下った所にあり、そのまま上がることはない。大水害に襲われた原因を思い起こさされる。水害で現在の本宮大社に遷座できなかった中四・下四社が左側に祀られ、旧社地にあった摂末社が右側に祀られている石の祠が旧社地の一角にあり、8:00 参拝。

8:30、本宮大社の直ぐ近くで、新宮駅への始点となる熊野本宮・バス乗り場に。ここでの乗車客は数名であったが、次第に増し、特に欧米系の老若・男女が多くなり、何度も運転手がバスから降り、大声・手振りで中に押し詰めて身動き出来なくなっている。乗物だから定員があるはずだが、特に巨体の欧米の人の場合には人数でなく、重量で制限すべきだ。曲がりくねった狭い道でもバスはかなりの速度で走るので、横転しないかと心配させられた。熊野川川下りの舟乗り場や、4 か所の温泉で多数が下車。古道・神社参拝だけでなく、種々のことで日本を楽しんでいるよう。

10:20 新宮駅着。丁度、電車があり、遠回りになるが、これまで電車で通ったことのない紀勢本線・阪和線に乗ることとし、10:28 新宮駅発の特急くろしお 18 号で、14:50 新大阪駅着。新幹線で東京へ。19:00 過ぎ自宅。



7:37 広々の月心庵内部の一部



7:43 月心庵



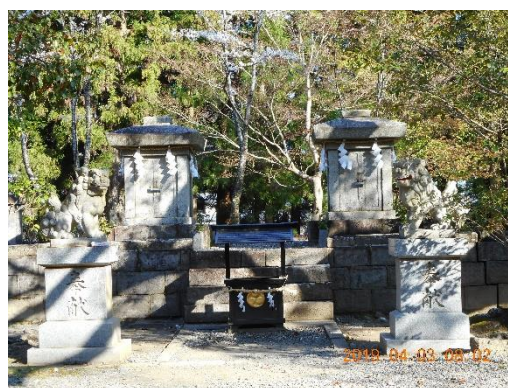
7:54 大斎原旧熊野本宮大社への参道



7:58 本宮大社跡



7:58 大斎原の本宮大社跡



8:02 中四・下四社と摂末社が祀られた石の祠





10:00 バスの車窓からのエメラルドの熊野川



10:20 新宮駅



10:53 電車車窓からの紺碧の熊野灘



11:08 電車車窓からの紀伊田原の海岸



11:09 熊野灘・紀伊田原の海辺



15:37 新幹線から伊吹山を望む



16:47 新幹線から富士山を望む

今回の参詣では、計画していた高野山へのお礼参りを中止したことは残念であった。しかし、さすがに熊野古道、5日間に数々の神秘を体感、絶景に感動・感嘆などし、心新たに今後を過ごせそう。3年半前の51日間での四国八十八か所霊場約1200km巡礼、1年前の9日間での小豆島約150km巡礼のときと比べ、単純に計算すると1日あたり、四国では平均約24km歩き、小豆島では平均約17km歩き、今回の熊野古道では最初と最後の日を除く3日間で平均約16km歩いている。古道は歩き難さがあるとは言え、やはり体力の衰えを感じさせられた。現在75歳、毎日の健康運動を続け、日々を大切に過ごしたいものである。